

68 我が街、船橋を歩く 船橋の魅力（39）
—船橋の最北端 旧小野田村を訪ねて（4） 石造物—

29 期 仲田 元昭

今回は、船橋の奥座敷、最北端にある旧小野田村の最終回のご案内です。祖師堂裏にある大変珍しい石造物の古卵塔、道端に残る庚申塔をご案内します。

「古卵塔」

前回ご案内した祖師堂の裏には、村人しか入ることがない江戸時代以前からと言われる古い墓地があります。地元の方は墓地を「卵塔場」と言っていました。「古い卵塔場」が古卵塔と呼ばれるようになったのではないかと伝えられています。墓地は、小野田城址の土塁の上に、数多くの古卵塔があり、荘厳な雰囲気漂わせています。



「祖師堂裏の古卵塔」

「庚申塚」

小野田でも庚申信仰が江戸時代から行われ、多くの庚申塔が作られました。庚申塔は、昔は村の出入り口や道端に置かれていましたが、最近道路が拡張整備され、神社や寺院に集約されるようになりました。

ここ小野田では、隣の集落との境の道端に16基の庚申塔と、反対側に馬頭観世音供養塔11基があり、今日では都市部で大変貴重な光景となりました。

日蓮宗の方が多い地域なので、「帝釈天王」と彫られた庚申塔2基、「青面金剛王像」1基、庚申供養塔等、330年程前の元禄6年（1693）から平成8年まであります。

庚申塔は、庚申信仰の結束や存在の証として建立されたものです。

日本には、平安時代以降貴族の間で広まり、その後仏教や神道と結びつき、江戸時代に庶民の間で最も栄え、多くの村で庚申講ができ、庚申塔が作られました。



「祖師堂横の古卵塔」



「道端の庚申塔 16 基」

（参考図書：地元積田家遺稿集、ガイド仲間矢島氏情報、船橋の地名を歩く、他） 「69 我が街 船橋を歩く に続く」 「寄稿：2026-7-1」